

## 本書の取扱いにあたって

### ■ご利用の前に

- ・ 人体図ボードと外国籍県民向け一般用医薬品販売対応マニュアル（本書）は組み合わせて使用して下さい。
- ・ はじめに、外国人の方がお客さんとして来訪された場合、日本語でも構いませんから、まず挨拶をして下さい。
- ・ 日本語が話せない場合、人体図ボードを利用して何語が話せるかを確認します。英語（赤）、韓国・朝鮮語（青）、中国語（黄色）、タガログ語（紫）、ポルトガル語（緑）、スペイン語（茶）、の6カ国語を収載しておりますので、理解可能な言語を選定して下さい。
- ・ 日本語表記が上にあり、下に外国語が記入しています。
- ・ 使用時には、指やペン先等を利用して示すことで、正確に伝わるようにご使用下さい。
- ・ 本書（外国籍県民向け一般用医薬品販売対応マニュアル）はバインダー形式ですので、必要に応じてコピーをとり、該当する箇所にチェックや印を入れ、患者さんに渡して下さい。

### ■ 具体的な使用方法

#### 【人体図ボード】

- ① 人体図ボード（人体図面）を利用して、具合の悪い個所を指で示してもらいます。  
例1）頭痛の場合→頭を指で示す。  
例2）下痢の場合（お腹がごろごろしている・腹痛等の症状）→お腹を指で示す。
- ② 人体図ボード（症状面）を利用して、現在の症状を指で示してもらいます。
- ③ 直接、希望の薬を求めて来訪された場合は、人体図ボード（症状面）の“希望の薬を選んでください”を利用して、風邪薬、痛み止めなどの薬効分類表にある、項目を指で差してもらいます。  
※ “症状”と“希望の薬を選んでください”を組み合わせることで、より詳しい患者情報を得ることができます。

#### 【外国籍県民向け一般用医薬品販売対応マニュアル】

- ④ ①～③で得られた情報より、本書を利用し“かぜをひいたようだ、鼻炎かな、花粉症かな”等の具体的な疾患の頁に移動します。

- ⑤ “疾患”：症状の程度・発症時期・合併症等を確認します。
- ⑥ “確認事項”：既往歴・副作用歴などの確認を行い、医薬品を選定します。  
ここまでに確認してきた内容から、相手が必要としているOTC薬を絞り込めてきたと思います。(注意：上記の順番は標準的な対応の場合ですので、順番が入れ代わっても問題はありません。)

これ以降は、共通の質問事項として、OTC薬を購入するすべての患者を対象に説明を行います。

- ⑦ “服用上・使用上の注意事項”：1回服用量や服用回数等を説明して下さい。このページをコピーして1日      回・1回      個・1回 ml 等の下線部には具体的に数字を記入し、該当する箇所にチェックを入れて、説明の上、コピー等を患者さんに渡して下さい。  
※ 必要に応じて病院への受診を勧める 15. 16 の項目を利用して下さい。

- ⑧ “使用法”：該当する外用薬などの具体的な使い方について説明の上、コピー等を患者さんに渡して下さい。

- ⑨ “副作用”：該当する項目にチェックを入れて、説明の上、コピー等を患者さんに渡して下さい。

※ 副作用の項目では、該当事項を組合わせて使用してください。

例：“③発疹、発赤、かゆみが見れる事があります。”と“⑧使用を中止してください。”にチェックを入れて下さい。

→発疹等が見れた際は使用を中止してくださいの意味で使用します。

- ⑩ “保管上の注意”：該当する項目にチェックを入れて、説明の上、コピー等を患者さんに渡して下さい。

- ⑪ 最後に、OTC薬では対応できない場合、医師の処方せんが必要な薬の場合は、“副作用”の病院への受診を勧める項目の9.を使用して近隣の医院・病院への受診を勧めて下さい。